

宇宙NOW

No.208
2007

7

Monthly News on Astronomy from NHAO



森 淳 特別研究員 追悼 特別号

追悼

森 淳

特別研究員



経歴と主な業績

- 1970年 10月 17日 愛知県生まれ
- 1993年 3月 京都大学 理学部 卒業
- 1993年 4月 東京大学 大学院理学研究科 天文学専攻 修士課程 入学
「岡山多目的近赤外カメラ OASIS の開発」
- 1995年 4月 東京大学 大学院理学研究科 天文学専攻 博士課程 進学
「オリオン星形成領域の超広視野近赤外輝線観測」
「双眼広視野近赤外カメラの開発」
- 2000年 12月 国立天文台 岡山天体物理観測所 非常勤研究員
「岡山多目的近赤外カメラ OASIS の改修」
「新近赤外分光撮像共同利用装置 ISLE の開発」
- 2003年 4月 兵庫県立西はりま天文台公園 天文台 特別研究員
「西はりま天文台彗星スペクトルセンター構想」
「次期小惑星サンプルリターンミッションの
探査候補天体の地上観測」
「73P/Schwassmann-Wachmann 3 彗星の観測」
「177P/Barnard 2 彗星の観測」
「P/2006 T1 (Levy) 彗星の観測」 他
- 2007年 5月 22日 36歳で逝去

各種団体からの委嘱

- 2004年 3月～ 彗星会議運営委員
- 2005年 1月～ 日本天文学会天文教育委員
- 2005年 7月～ 日本公開天文台協会事務局長
- 2007年 3月 天文教育フォーラム実行委員



「自分の値踏み」

森本雅樹

年下の人を亡くすと、つい自分のその頃を考えます。35歳、オーストラリア、太陽電波の大きなプロジェクトで派手に成功に貢献し、帰り際、自分、日本に宇宙電波を！とほとんど決めていました。

「日本で宇宙電波なんてダメだ」日本の偉い先生を値踏みながら日本に帰ってもダメだ、と強く勧められました。向うに残ったらどうなっていたか？ 森君は10年でどうなり、20年でどうなつたらう、亡き齢を数えながら、しきりと同じ値踏みをしています。

(もりもとまさよし)

／西はりま天文台顧問



「星になった森君」

黒田武彦

悪夢のような5月22日でした。深夜、病院へは救急車で運ばれましたが、心配する奥様や私を前に、森君も医師も大丈夫だと言うものですから、酸素吸入、点滴の後、私の車で帰宅しました。3時頃、別れ際に振り向いて微笑んでくれた姿が目に焼きついて離れません。

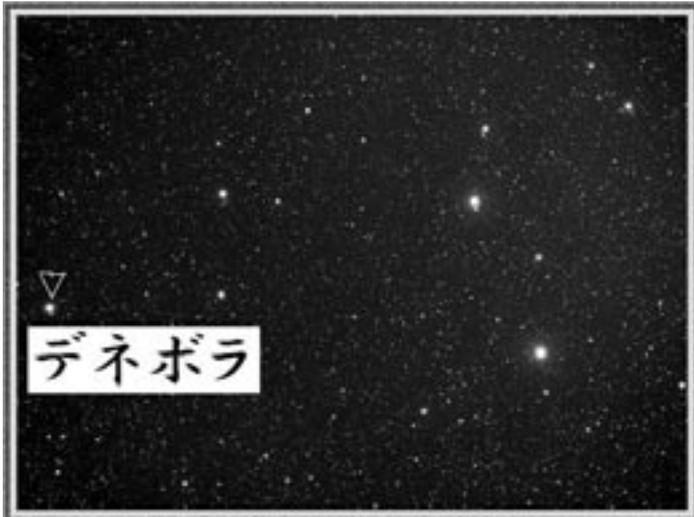
森君はオリオン星雲など星形成領域の近赤外線観測を専門としていました。しかし、西はりま天文台公園に来てからは、2mなゆた望遠鏡の特質と、公開天文台の特質、そして生命とのつながりを意識して、彗星の観測的研究を進めるため、彗星スペクトルセンターを立ち上げ、活動をスタートさせたばかりでした。彗星がどこで生まれているのか、彗星の核の水結温度等を求めるスペクトル観測が順調に進んでいました。その彗星の謎解きを行う前に、森君は逝ってしまいました。わずか36年間の輝きでした。

森君は星になりました。その星はしし座の尾に輝く二等星デネボラです。森君が生まれたときに放たれたデネボラの光

は、森君の最期に合わせるように地球に届きました。

5月22日の宵、真南に輝いていたデネボラは、まさしく森君。36年を駆け抜けてきた光は、これからも永く輝き続けてくれるに違いありません。
(くろだたけひこ)

／西はりま天文台公園長



「残せないこと」

石田俊人

聞き取りやすい声、明瞭な話し方、そして、話す相手を良く考えた内容や話題の選択：

西はりまへやってきて間もないころ、まだ一般市民に話をした経験はそう多くはないはずなのに、すでにいくつも横で見



観望会中の森研究員。お客さんも自然とのりのり

ていて感心する点を持っていった。その後も、毎日の観望会の中、自然学校の小学校へ向けて、地元での出張観望会と、さまざまな機会に宇宙の話をし、幸いなことにそのいくつかは記録映像として残った。しかし、直接話しを聞いたことがある人はすぐにうなずけるだろうが、映像では残らない、いや、残せない話ぶりのようなところから伝わる魅力を持っていた。そのすべては、直接聞くことができた幸いな人々の記憶の中に…

(いしだとしひと)

／西はりま天文台台長

「森君と言えば…」

圓谷文明

思い浮かぶのは、これからの季節になくってはならない屋上ビヤガーデン。いつでも研究員で飲みに行った時、徐々に暮れて行く青空の中で、「あつ金星だ!」「ベガが見える!」といち早く見つけ出していたのが印象に残っている。私にはどうしても彼の差す方向に見つける事ができなかったつけ。

今年もビヤガーデンカラオケコース

を一緒にしたかった。(つむらやふみあき)

西はりま天文台主幹研究員



「もう一度一緒に星を見たい」

時政典孝

2006年11月9日、早朝にもかかわらずそこには森くんの姿がありました。水星太陽面通過のイベント手伝いと自身で見たいという気持ちからでしょう。

思いおこせば2003年5月7日、西はりまでは曇天で見られないと、赴任したばかりの森くんと鳥取まで車を走らせ、途中の道すがらに望遠鏡を担ぎ出し「見えた!」と二人で興奮したあの日思い出します。海岸に望遠鏡を出した時には、

追悼



2003年5月、鳥取にて水星太陽面通過の準備中

怪しく思い尋問された警官に、太陽の前を水星が横切るんだと説明していた森くん。よけいに怪しまれてしまったね。先日の水星太陽面通過は、あのときのリベンジだねと確認し合いました。

今度は26年後の現象、森くんとは見られないことになってしまいました。26年後には私も定年してるから、杯片手にこの現象をまた見たいと思います。

(ときまさのりたか)

西はりま天文台 主任研究員

「森君」

鳴沢真也

今日も満天の星空だよ

そして、今日も

たくさんの子供たちが来ているよ

森君の好きな子供たちが

ぼくたちのなゆた望遠鏡で

子供たちが星を見ているよ

もつともつと宇宙のロマンや

星々の神秘を

子供たちに伝えたかったね

森君のその思いを

ぼくたちがなんとしてもひきつぐよ

だから、今日も遠くの空から

ぼくたちを見まもっててください

(なるざわしんや)

西はりま天文台 主任研究員



子ども大好き
森研究員

「これから」

坂元誠

「ねえねえ、森センセ」「はい、なんですしやろ」「秋からはじめる講座で講師やってくんない?」「いいですよ、わてはでっちですから」

21日、パーティション越しに仕事の相談をしていた。この日はいつものように一緒に晩ご飯も食べた。帰り際に、「おつかれさん」と言葉を交わして別れた。

今、そこで止まっている。終わつたとは思えないし、思っていない。おそらく彼もそうだろう。僕らは多くの楽しみを抱えている。成し遂げるには苦難も伴うだろうが、これからは彼と一緒に取り組んでいく。

(さかもとまこと)

西はりま天文台 主任研究員



2006年8月、惑星からはずされる直前直後の冥王星のライブ中継を準備中

「残響」

松田 健太郎

森さんと最後にお会いした日、私は森さんから「明日はよろしく」と声をかけられました。この時の話は、森さんに替わって受け持つことになったとある仕事についてのことでしたが、その何気ない言葉が今はそれだけにとどまらない重みを帯びて思い出されます。

気さくな良き先輩で、観望会などにおける話術が巧みで、コロキウムなどでは鋭く的確な指摘を次々と発していた森さん。

5月22日以後のあれやこれやの記憶は最後には決まってそこに行き着くのです。その度に、彼に「よろしく」と言われて恥じるところのない研究員でいたい、とそう思います。

(まつだけんたろう／)

西はりま天文台特別研究員

「森さん」

内藤 博之

研究室のドアが開いて「こんちわ〜」と森さんが入ってくる、ふとそう思うことがあります。森さんが亡くなって1ヶ月が過ぎましたが、いまだに実感がわきません。

森さんは本当に間違いない人でした(マックノート彗星の観測はみんなで大ドジしたけど)。決まって正しい人でした。僕はよく間違いをする人間なので、森さんはいつも僕をちゃんとした方向へ導いてくれました。本気でしかつてくれましたし、強くやさしい言葉で励ましてくれました。それが僕にとつての森さんでした。

森さんが眠ってしまったとき、強く思

い出した言葉があります。「目を覚ませ」。僕が将来について悩んでいた時に森さんがかけてくれた言葉です。この言葉を森さんに返すことはできません。「返さなくてもいい、ちゃんと生きろ」と言われている気がします。ずっと将来まで、森さんのいる遠い未来まで、この最期の言葉を胸に頑張っていきたいと思います。森さん、待つてください。

(ないとうひろゆき／)

西はりま天文台嘱託研究員

「ロンブーコンビ」

飯塚 亮

森さんは、いつも人を喜ばせることを忘れない人でした。森さんと観望会当番のコンビを組むことが多かった私は、後ろの方で森さんの話をよく聞いたものでした。森さんが観望会を始めると、一瞬でお客さんとの一体感ができあがります。そして、話が進むにつれ、嫌でも「森ワールド」にどんどん引き込まれます。この魅力、カリスマ性は、絶対にマネできないと、いつも思っていました。嫉妬する気持ちすらありました。

追悼

そして、事実を受け入れることができない今。私は、1つだけ気持ちの整理ができました。超一流のエンターテイナーとして、一生をかけて目指すべきお手下があるということ。森さんは、西はりま天文台のカースマ研究员として、永遠に天文台に語り継がれることでしょう。(いづれか)／

西はりま天文台 嘱託研究员)



観望会前に気合いをいれる3人

「ありがとう」

清水啓良

私と森さんとは、プロ野球の話題でいつも盛り上がっていました。森さんは、

根っからのドラゴンズファン、私の方は、地元タイガースと幸いにも森さんが西はりま天文台公園に連れてこられたこの4年、お互いのチームが交互に優勝するという偶然も重なって盛り上がっていました。

毎年のスターダストの準備には、ドラゴンズのタオルを首にかけ、汗をかきながらみんなと仕事をしていた場面を思い出します。また、歓送迎会や忘年会では、その会の盛り上げ役としてみんなを引っ張ってくれたり、旧ソ連を旅行した話など、私の知らない世界もいろいろと教えてもらいました。最後に「いろいろありがとうございました。心よりご冥福をお祈り致します。(しみずひろよし)／

西はりま天文台 業務課係長)

「後歩きで探した流れ星」

田村善美

「灯りを消してろうそくを灯すだけで、エコを実践したつもりですか？」あの時の森さんの一言はとても厳しく感じたけれど、以来事あるごとに私の足元を真っ直ぐ見つめさせてくれます。どんな小さな

なことでも、それが間違っていたとしても、必ず自分自身で考えてみることに、意味に気づくこと、そんなことを考えさせてくれる言葉です。今はただただ森さんが気づかせてくれたことを大事に、自身の毎日を丁寧に暮らしていきたいと思えます。話は変わりますが、発芽フェチだった森さんに教えてもらいました。発芽させる秘密は「少しだけ傷をつける」(その加減が難しい)ことらしいです。肝に銘じておきますね☆ありがとうございます。(たむらよしみ)／

西はりま天文台 元事務員)



毎日記録をつけていたバオバブの木



2007年4月後半、なゆた望遠鏡でのラブリョイ彗星の分光に成功し、少々自慢げ



2003年6月、建設途中の南館の前で



森研究員の前ではみんな笑顔



オリオン大星雲を語ると止まらない



2005年7月、ディープインパクトは大盛り上がり



森研究員が使う日を心待ちしていたなゆた望遠鏡用赤外線カメラ

追悼



2007年4月、春の大観望会のクイズ大会にて



森研究員が愛用していたイラスト



マイク返して下さい



なかよしコメントチーム



姫路城にて花見



世界一の望遠鏡で見る心の準備はいい？



母校の高校生が来園。後輩と共同観測



佐用町長から森研究員へ感謝状を贈呈



2006年8月、冥王星の取材で大忙し

「君の思いは永遠だ」

渡部 潤一

「先入観のない状態で、本物を見て感動してもらおう」いまでは国立天文台三鷹キャンパスの定例となった観望会。そのスタートは、当時、大学院生だった君の、この熱い思いが原点となったよね。君は自ら観望会スタッフの初代まとめ役となり、観望会のスタイルを築き上げてくれた。ボランティアなのだから、と謝金の受け取りを拒否された時には、僕も困ったけどね。さらに「観望会のスタッフたるもの、本物の星の美しさを知らなくてはならない」と、大きな望遠鏡を備えた清里のペンションで、一泊二日のスタッフ全員で合宿したこともあったね。夜半から晴天に恵まれ、オリオン座が上ると、君は自ら研究対象としていたオリオン大星雲を皆に見せながら、深夜の冷えた空気を暖めるほど、熱く語っていたのを思い出すよ。

多くの人に星の不思議さを知ってもらおうという熱い思い、そして感動を分かち合いたいという君の思いは、この国立天文台でも脈々と引き継がれているよ。

森淳君の訃報を聞いたのは、岡山大学で講義の一環として催したスターウォッチングの最中であつた。先日お子さんが産まれたと聞いたばかりであつた、将来を嘱望される若者が何故そんなに生き急ぎ、死に急いだのか。彼の死を悼み、この拙文を捧げたい。

彼との思い出の多くは、岡山188センチ望遠鏡の赤外多目的分光撮像装置(OASIS)に絡んでいる。この装置の開発発は山下卓也氏の指揮の下、観測所も総動員体制で臨んだが、奥村、西原、森の若手トリオが実働部隊として獅子奮迅の活躍をした。彼らの努力が実を結び、OASISが我が国における近赤外観測の地平を切り開いたことは多言を要しない。

この装置の開発は1991年に始まり、1994年春から188センチ望遠鏡への取り付けに入った。装置の立ち上げから観測まで、森君が黙々と自分の役目を果たしていたのが記憶に残っている。特筆されるべきことは、この時期にシューメーカー・レビー第9彗星の木星衝突という、希有なイベントを迎え撃つたことである。連日記者会見が行われる大騒動の中で、彼は山場の3週間、OASISのお守りと観測とで昼夜を分かたず働き詰めだった、と述懐していたが、このような厳しい経験から彼は観測と装置開発の極意を手にしたと思われる。

森君は、その人なつこい人柄と、黙々と仕事をこなす態度が信頼感を生み、観測所や装置開発の現場には欠くべからざる人材であつた。また、社会貢献にも強い関心を持ち、観測所の公開で見学者に親切に対応していたことが印象に残って



国立天文台観望会初期の頃

「森淳君の死を悼む」

前原 英夫

追悼

いる。なゆた望遠鏡による観測・研究が緒についたばかりで逝つたことは、さぞ心残りであつたらう。残された者がそれを遅滞なく進めることが、彼の遺志に報いることになると思われる。

(まえはらひでお)

岡山天体物理観測所 元所長)



188センチ特別観望会にて

「森 淳くんを偲んで。」

河北秀世

森くんと私の付き合いは、大学の天文サークルでの出会いにまでさかのぼりません。特にこの数年は「西はりま彗星スペクトルセンター」の活動で頻繁にやりとりをしていましたが、もともと、森くんの専門は彗星ではありません。そんな彼が「西はりま天文台で2m望遠鏡を生かすためには、彗星の分光観測を専門にや



73P/SW-3 彗星を観測中

るセンターを立ち上げるのがよかろう」と私に相談してきた時には、彼の発想の柔軟さに大変に驚きました（私や国立天文台の渡部さんが先に話をもちかけたと思っている人がいたら、大きな誤解です！）。彗星スペクトルセンターの紹介DVDを作製し、彗星の観測を押し進めて西はりま天文台を全国へとアピールしたのは皆さんもご存知の通り。そして、この春には彗星スペクトルセンターとして最初の論文を書こうとしていた矢先の夭折でした。森くんのご冥福を、心よりお祈りいたします。森くん、早く論文を仕上げから、ちよつとどこかの彗星に腰掛けて待つていてくださいね。

(かわきたひでお)

京都産業大学 理学部 准教授)

「森へ」

高橋英則

直接話しができなくなってから、早や一ヶ月。その間にも連絡を取りたいことがたくさんあつたよ。大概は他愛のないことばかりなんだけどね。

こういう出来事があつてから思い起こすのは何だけど、やつぱりこれまで一緒にやつてきた数々の出来事が思い出されます。岩手八幡平での天文若手夏の学校で出会ったのが10数年前。それから今まで本当に多くの時間を共にしました。学会の夜に飲み歩いたこと、男二人でダブルを予約してしまい、ホテルの人にぎよつとされたこと、大好きな中日戦で声を枯らして応援したこと、お互いの家に泊まり合い、遅くまで語りあつたこと、特にはまだじめな研究の話で熱く議論したこと、昨年の今頃はぐんま天文台で談話会もしてくれたね。

森との時間はあの日で止まってしまっているけど、僕らの周りはどうも時間が過ぎていきます。世の中のもの凄いスピードで変わっていきます。でも頑張つて生きていこう。それが僕らに出来る唯

一の事。森もぎつとそれを望んでいると思う。また、いつか、どこかで会える日を楽しみに、そしてそのときはまたこれまでと同じように酒を呑みながら、夜な夜な話すことにしよう。ひとまずここで一区切り。これまでありがとう。
(たかはしひでのり)

県立ぐんま天文台主任



2001年10月、姫路城にて

「出会えて感謝」

岸本麻衣子

森さんと初めて出会ったのは、5年前のとある研究会でした。彗星スペクトルセンターについて熱く語る森さんの話に引き込まれ、研究会終了後、活動に参加させてほしいとメールを送りました。森さんはこの活動が広がることを歓迎して、共同観測者として受け入れてくれました。

森さんとの観測は決まって天気が悪く、いつも天候回復待ち。そんな時、森さんはなゆたでの観測の意味をよく話してくれました。「なゆただからこそできる研究」：その話にどれだけわくわくが膨らんだか分かりません。また、厚い雲を利用して、普段は分光観測することのない惑星に望遠鏡を向けたりもしました。森さんは決まって楽しそうで、純粋に宇宙を愛する人でした。

また、私にとって森さんは頼りになるお兄さんのような存在でした。私が精神的にまいってしまったのを知って「生きる一助になれば」とメールやお花を贈ってくれたこともありました。生涯忘れることはありません。まだまだ衝撃が大きく、言葉が見つかりませんが：今まで本当にありがとうございます。どうかゆつくりと休んでください。
(きしもとまいこ)

彗星スペクトルセンターメンバー

「星になるには早すぎる…」

戸田博之

なゆたの傍らで熱心に説明する姿。ス



彗星スペクトルセンター始動！

タデイールームでわかりやすく話す姿。懇親会でくだらない事にもまじめに議論する姿。友の会の例会で森さんはいろいろな姿を私たちに見せてくれました。人が好き、星が好きで、他人を楽しませ自分も楽しんでる。そんな姿をもう見ることができません。まだまだみんなと楽しい時間を過ごせただけなのに、突然私たちの前からいなくなるなんて：

森さん、あんた星になるには早すぎるよ。

(とだひろゆき)

西はりま天文台友の会会員

▼1日(金) 笹江課長補佐、夏のイベントの件で佐用警察と協同。朝日小学生新聞取材。TBS「学校へ行こう!MAX」の撮影。鳴沢・飯塚研究員対応。

▼2日(土) 観望会には一般観望会分と合わせて60名参加。

▼4日(月) 係長会議。客員研究員の伊藤洋一氏(神戸大学)、大学院生と共に来園。60センチ望遠鏡で観測。トライやるウィーク初日。天文台公園へは6名。天文台のメニューは松田研究員が中心になって対応。自然学校観望会。

▼5日(火) 夏のイベント関連で、宇宙関連のオリジナル曲募集を発表。佐用町で受け入れの国家公務員研修で3名来園。午前は自然学校、午後は天文台で。見学・工作も含めて。飯塚研究員、兵庫県立大学で初講義。

▼6日(水) 圓谷、坂元、石田、三菱電機となゆた望遠鏡保守作業について打ち合わせ。馬場氏(北大)学生と共に来園。圓谷研究員と共同でVTOSを使って木星の衛星イオの観測。

▼7日(木) トライやるウィーク観望会。

▼8日(金) 先日来不調の研究員のFAX修理。1日の取材分朝日小学生新聞に掲載。

▼9日(土) 町長より故森研究員への感謝状贈呈。内藤研究員、明日の講演会講師の板垣氏を交えて、SNOW@サイト。

▼10日(日) 天文講演会は板垣公一氏(天体捜索家)の「私の超新星探索」。参加55名。

▼11日(月) 午後から、森研究員が途中まで用意していた日本公開天文台協会(JAPOSS)総会のための資料を作成。黒田園長に託す。

▼12日(火) 伊丹市有岡小学校の自然学校観望会。本日より岡山県美星でのJAPOSS総

天文台日記



石田 俊人
天文台長

6月

会。15日まで。入れ代わったりしながら、黒田園長、坂元研究員、時政研究員、鳴沢研究員出席。

▼13日(水) 黒田園長の代理で佐用町議会へ。14日午前、28日午前も。

▼14日(木) 梅雨入りとのこと。JAPOSSの帰り道の来訪数名。

▼16日(土) 友の会観測デー。夏のイベントの打ち合わせ。近畿大学天文部合宿。

▼18日(月) 係長会議。

▼19日(火) 職員、健康診断。25日にも分かれて実施。1日に取材があったTBS系「学校へ行こう!MAX」放映。放映後に電話での問い合わせが増えるかと思いきや、webへのアクセスが何十倍にも増加。もしかすると、アクセスしにくかったかも。スイマセン。鳴沢、内藤両研究員が共著となっているプレアデス星団のプレオネという星についての論文が受理されたとの連絡入る。

▼20日(水) やはりwebへのアクセスが多い。電話ではイリジウムフレアについての問い合わせが目立つ。飯塚研究員、山武PR誌取材。

▼21日(木) 仲村事務員、遅れたが、頑張つて宇宙NOW6月号発送。

▼22日(金) 夏至。鳴沢研究員、東京三鷹での国際研究会に出席し、以前JICAから研修に来ていたパラグアイのフレディ・ドンセル氏と再会。

▼23日(土) サイエンスイベント「ものを浮かしちやおう」。参加33名。

▼26日(火) 圓谷研究員VTOSについてのコロキウム。また、坂元研究員が中心となって今年度実施予定の星空案内人検定について会議。会議参加者は、飯塚研究員、山形大学柴田氏、姫路科学館安田氏、星の子館小関氏、加古川少年自然の家太井氏ら。

▼27日(水) なゆたWG。

▼29日(金) 飯塚・時政研究員で検討中のイベントと関連して、人工衛星の無線受信テスト。友の会会員、アマチュア無線愛好家など参加。仲村事務員退職。

▼30日(土) 飯塚研究員、外国人20名の案内を英語で行う。



天文台インフォメーション

#は友の会会員のみなさんだけへのお知らせです。

西はりま天文台ホームページ

<http://www.nhao.go.jp/>

昼間の星の観望会

日時：7月20日～8月31日
午後2回：13:30～、15:30～(30分間)

場所：天文台北館

参加無料、申し込み不要

内容：

昼間に星が見えるの？60cm望遠鏡で実際に確かめてみましょう。悪天候の場合は、なゆた望遠鏡の見学会になります。

国際宇宙ステーションを見よう

日時：8月3日(金)17:00～21:00

場所：天文台南館、芝生広場

参加無料、申し込み不要

プログラム：

17:00～18:00 お話「人工衛星って？」

19:30～21:00 観望「人工衛星を探そう」

*なゆた望遠鏡で人工衛星は見られません

内容：

人工衛星は太陽の光を反射して光るので、夕方や明け方に見ることができます。西はりま天文台のような暗い空だと、いくつか人工衛星を見ることができます。この日は、国際宇宙ステーションやいくつかの人工衛星をみなさんと一緒に探してみたいと思います。

担当：飯塚 亮 嘱託研究員

「オネ☆ホシ」天体撮影！

「なゆたを使って季節の

人気天体を撮影しよう！」

日時：8月10日(金)21:30～24:00

場所：天文台南館 観測制御室

内容：

「おねがい！このほしとって☆」アンケート(<http://www.nhao.go.jp/~sakamoto/onehoshi/>)の人気ランキング天体を「なゆた望遠鏡」で撮影します。撮影データはデジタル天体画像集になります。ぜひ、最新のデジタル天体画像集作りに参加してください！

*参加には家族棟への宿泊予約が必要です

*画像集については「NHAO-3D Project」

(<http://www.nhao.go.jp/~sakamoto/3dimage/>)

担当：坂元 誠 主任研究員

南極と宇宙展

日時：8月5日(日)～8月19日(日)

場所：南館1階ロビー

内容：

南極の氷に触ってみたり、越冬隊員の防寒服と宇宙服を着比べてみたりして、南極を通して宇宙に思いを巡らせてみよう。

第150回天文講演会

日時：8月12日(日)13:30～15:00

(スターダスト2007中で開催されます)

場所：天文台南館 スタディールーム

参加無料、申し込み不要

「南極で天体観測」

講師：市川 隆 氏

(東北大学 理学研究科
天文学教室 教授)



内容：

極寒の乾燥した南極は地球上で宇宙に開かれた最後の窓とも言われています。大気は安定していて、しかも75%以上の快晴があるとされているため、将来南極に口径2mクラスの赤外線専用望遠鏡を建設する計画を推進しています。南極でどのような観測を行うことができるのか、ご紹介いたします。

「南極の空」

講師：山本 道成 氏

(第47次南極観測隊
/ 綾部市天文館技師)



内容：

南極昭和基地での越冬の経験をもとに、南極の美しい世界や厳しい世界を紹介します。南極には、星空もあればオーロラも、白夜や極夜、暈や蜃気楼など様々な光学現象があります。また、南極で行われている観測についてもご紹介いたします。

#「ともねっと」のお知らせ

友の会会員を対象としたメーリングリスト「ともねっと」を運営しています。イベント案内や天文現象など宇宙NOWで掲載しきれない情報を得ることができます。また会員同士の交流の場ともなっています。参加ご希望の方は下記アドレスまでお問合せください。

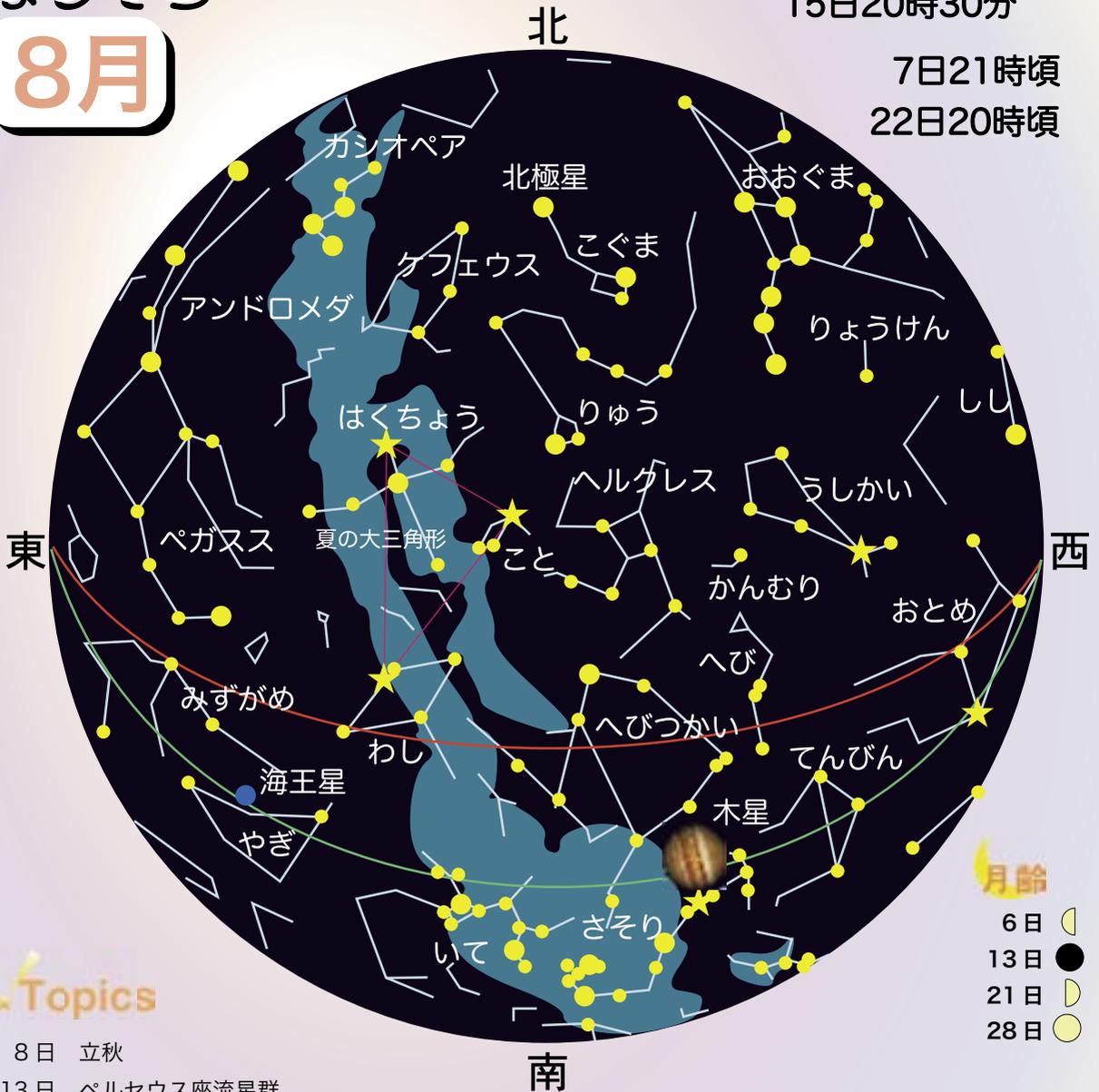
tomonet-admin@nhao.go.jp

ほしぞら

8月

15日20時30分

7日21時頃
 22日20時頃



Topics

- 8日 立秋
- 13日 ペルセウス座流星群
- 14日 海王星が衝
- 28日 皆既月食



編集後記

亡くなった人を敬うことは自然なこと、形に残せるものは残すべきだと思えます。でも、亡くなった人への思いを残すような執着はしたくありません。森さんとの様々な関わりが、ふとしたときに思いでるようになります。(飯塚亮)

表紙の説明

2003年5月、水星太陽面通過を観望するため、望遠鏡の準備をする森研究員。西はりまでは曇天だったので、鳥取にて。



7月上旬、満開になったラベンダー